

# 2012 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	生存学研究センター
研究センター長名	西 成彦

## I. 研究実績の概要（公開項目）

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究センター設置時における研究計画書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

### 研究計画の概要について

「生存学」創成拠点の成果をさらに発展させ、生存学の国際化を推進するために、グローバルCOEプログラム終了後の2012年度は、以下の4つのテーマを軸に研究活動を展開する。これらのテーマは密接に関連しているため、相互に連携・協力して調査研究を実施する。

#### I. 生存の現代史

病や障害がもたらす身体の差異・変容を生きる人々の現代史を、日本を中心に記録・分析・考察する。特に先駆的な活動をしてきた存命の関係者からの聞き取りや資料収集については、今後数年が最後の機会となり急ぐ必要がある。病や障害について名付け、表現し、原因を問うこと、病や障害に関連する技術・技法の開発と普及およびその影響、社会運動の内部対立を含む経緯、そこに現れた主張・思想、運動と政策の関連、特にケアに関する言説と生活の変容等について検討する。

#### II. 生存のエスノグラフィ

「障老病異」のうち「異なり」の記述と解釈を追究する。ナラティブという語がもつ、語りと物語という広がりをもったテーマを「生存学」にひきつけながら扱っていく語り口を模索する。言語や物語は、異なりを前提としつつ、その異なりを横断する語り口をきりひらくことで、異なりを承認し、異なりからなる世界を肯定するための切り札となる人類の財産である。その語り口にもまた本来、定型は存在せず、語りのひとつひとつが独自性を秘めている。そうした語りそれぞれの独自性に対する分析や解釈が本領域での研究の基本となる。「帰属する社会や文化による独自性」、「世代や年齢による独自性」、「病いや障害をもつ生の独自性」等を検討し、これらの独自性をふまえた相互理解のあり方について複数の方法論からアプローチしていく。

#### III. 生存をめぐる制度・政策

「障老病異」の生存をめぐる制度・政策に関する考究を行う。第一に、日本における「障老病異」の生存をめぐる制度・政策を社会学・社会福祉学・政治学・経済学をはじめ、社会政策学・社会保障論・医療史・社会運動論などの多様な学問分野における知見を総合的に踏まえた上で、日本社会における「障老病異」の人たちがそれぞれの「かた」にして生きてきたのか、生きていくことが可能であったのかを解明する。第二に、国際比較分析、とりわけ東アジアにおける比較検討から、それぞれの国や地域における「障老病異」の生存をめぐる制度・政策を検討する。第三に、現在取り組まれている先進的かつ先駆的な実践者との共同研究を通じて、「障老病異」の生存が可能となる新たな社会的仕組みを構想する。以上を踏まえた上で、保健福祉制度およびその基礎となる理論の検討と政策提言を行う。

#### IV. 生存をめぐる科学・技術

「障老病異」に関わる自然科学・医学・科学技術について、科学史・医学史、科学技術社会論、生命倫理など、 이슈ごとに適切なアプローチを駆使して検討する。必要に応じてアクション・リサーチや政策提言を実施する。具体的には、原発問題に関連して、公衆衛生における環境放射能モニタリングの技術と制度の歴史的検討、生殖と死に関する技術の倫理的・社会的影響に関する研究など。また、生命科学・医療工学・福祉工学およびヘルスケア（医療・公衆衛生・医薬等）への患者・障害者の主体的なコミットメントに関する歴史と現状および今後の課題、患者・障害者主導の研究開発と成果利用の可能性と限界・問題点等。関連する当事者グループとのネットワークを形成する。また ICT やロボティクスとアートおよびゲームを結合した障害／病の表象と支援に関する調査も実施する。

## 研究成果の概要について

上記の小プロジェクトを主幹プロジェクトとして全面的に支援し、国内諸学会や、学内諸研究プロジェクト、さらには関西地域・京都周辺の民間 NGO などと連携しつつ、積極的にセンター事業を展開できた。また、本センター独自の施策として、若手研究者研究力強化型（若手強化）を実施し、院生等若手研究者の育成にも注力した。

雑誌『生存学』vol. 6 においては、酒井隆史氏（大阪府立大学）ほか気鋭の研究者を招聘しての鼎談「都市論：生存の都市へ」や「教育の境界、境界の教育」を特集とした。また、若手強化プロジェクト「若い研究会」がこれまでの活動成果を編み『研究センター報告 19 号』にまとめたほか、2012 年度で 3 回目となる「韓国障害学研究会との」研究交流企画について『研究センター報告 20 号』として刊行した。ウェブ学術ジャーナル *Ars Vivendi Journal* については vol. 3 および vol. 4 を年度内に刊行した。

### I. 生存の現代史

1) 日本の患者会・障害者団体など一般に流通していない機関紙等の収集とデータベース化し、arsvi.com にて公開（一部については、電子書籍化）した。2) 現代史をめぐる書籍・報告書（尊厳死法案に関する立岩・有馬『生死の語り行い・1』、報告書『「精神病」者運動家の個人史』等）を刊行した。3) 東日本大震災を「障害」や「病い」さらに「異なり」を抱える人びとの現代史からとらえ返すシンポジウム「災／生：大震災の生存学」を開催した。4) 差別禁止法をテーマとした障害学国際セミナー2012（ソウル）、テグ自立センターとの精神障害者差別をめぐる交流企画（京都）、ベルガモ大学の研究者との生命をめぐる技術・技法に関連する国際ワークショップ「生命と認知の総合モデル」など、「生存」をめぐる現代史に着目した国際研究事業をすすめた。

### II. 生存のエスノグラフィー

「障老病異」のうち「異なり」の記述と解釈を追究することに目標を置き、1) 「ナラティブ」を介した「セラピー」、日本質的心理学会との連携、2) 「異なり」を媒介する翻訳および通訳の問題、関西トランスレーションスタディーズ研究会との連携、3) 「ままならない身体」のエスノグラフィーとして文学作品の読解、日本近代文学学会との連携、4) 「まちの居場所」をめぐる活動家との共同企画、国際言語文化研究所重点プロジェクト「カストロフィと正義」との連携など、幅広く展開できた。数々のディシプリンが新しく、またくり返し出会える「プラットフォーム」としての生存学の可能性を貪欲に開拓できた。

### III. 生存をめぐる制度・政策

本研究では、「障老病異」の生存をめぐる制度・政策の考究を目的として活動を行い、以下に述べる成果を得ることができた。1) 『生存学』6 号や「研究センター報告 19 号」の刊行を通じて、少子高齢化を地方都市問題として考察する学問的視座を新たに獲得するとともに、戦後日本の「老」の生存をめぐる制度・政策の歴史的検討をさらに推進した。2) 富山大学共催企画や「韓国障害学セミナー」の実施をつうじて、生存学の研究対象としての東アジアの重要性を再確認し、国際化の促進を図るうえでの指針を得た。3) 学外の関連研究者も多数参画する若手研究者研究力強化型プロジェクトにおいて、先進的かつ先駆的な実践者を招聘した研究会企画を多数開催し、「障老」の生存をめぐる制度・政策にかんする現状と実証研究上の諸課題を再確認し、研究デザインの改善を行った。4) 哲学・倫理学者シュタイネック羅慈氏を招聘しての国際研究交流企画や、哲学者榎村晴香氏を招聘しての公開講演企画、生存学公開特別講義等の開催を通じて、生存をささえる制度や政策の正当性をささえる規範的価値の哲学・倫理的な検討を行うことで、生存学発の規範理論の相互批判的検討を深化させることができた。

### IV. 生存をめぐる科学・技術

「障老病異」と科学・技術との関係をめぐって幅広く研究活動を行った。主なアウトリーチ活動・成果として、1) 原発事故と科学者・研究者の責任に関して、日本生命倫理学会との共催で安斎育郎氏の特別講演を行い、当学会会員を含めて広く聴講者を得ることができた。また、年度末には『放射線を浴びた X 年後』の監督伊東英朗氏を招聘して上映会・講演会を行い、未開拓の研究課題に関する認識を共有した。2) 生殖と死に関する技術の倫理的・社会的影響に関する研究としては「生殖と法」企画を開催し、3) 福祉工学の活用に関する現状と課題というテーマに関して、京都府および NPO・支援者とのネットワークを活かした「難病者コミュニケーション講座」を開催し、連携関係を強化した。また、より広く生存学研究センターの取り組みを紹介する場として「生存学セミナー」を開催した。これらを通して、複数のテーマに即して多様なアクターと連携して研究活動に取り組むための基盤を形成することができた。

## II. 研究業績（公開項目）

### 1) 論文発表

#### ①論文（査読あり）

#### 雑誌論文

1. 岡部茜・青木秀光・深谷弘和・斎藤真緒, 「ひきこもる若者の語りに見る“普通”への囚われと葛藤——ひきこもる若者へのインタビュー調査から」, 『立命館人間科学研究』第25号, pp. 67-80, (2012)
2. 安部彰, 「病原生物との共生への一視座——動物の感染症の倫理的問題の検討をつうじて」, 『医学哲学 医学倫理』第30号, pp. 1-10, (2012)
3. 泉谷瞬, 「教化される感覚——多和田葉子「犬婿入り」論——」, 『昭和文学研究』, 昭和文学会, 第65集, pp. 84-94, (2012)
4. イム・ドクヨン, 「韓国における公的扶助制度の扶養義務—その実態と家族への影響を中心に」, 『Core Ethics』9, (2013)
5. 大野光明, 「復帰運動の破綻と文化的実践による『沖縄闘争』の持続——竹中労の沖縄論を事例として」, 『社会文化研究』15: 89-115, (2012)
6. 片山友哉, 「アスペルガー症候群のキャリア教育」, 『生存学』6号: 84-98, (2013)
7. 角崎洋平, 「選択結果の過酷性をめぐる一考察——福祉国家における自由・責任・リベラリズム」, 『立命館言語文化研究』第24巻4号, (2013)
8. 北村健太郎, 「老いの憂い, 捻じれる力線」, 小林宗之・谷村 ひとみ編『戦後日本の老いを問い返す』生存学研究センター報告19:120-142, 立命館大学生存学研究センター, (2013)
9. 上野正剛, 「聴覚障害児教育における書記日本語の問題」, 『生存学』6: 73-83, (2013)
10. 桐原尚之, 「植樹祭の過剰警備に伴う『精神病』者への弾圧と抗議行動」, 『生存学』6: 206-218, (2013)
11. 桐原尚之, 「「Y問題」の歴史——PSWの倫理の糧にされていく過程」, 『Core Ethics』9, (2013)
12. 小出治都子, 「化粧する女学生の誕生過程—修身教科書からの一考察—」, 『生存学』6号: 160-173, (2013)
13. 小出治都子・斎藤進也・稲葉光行, 「化粧文化の様相——コンピュータによる化粧品雑誌広告の可視化と分析」『アート・リサーチ』13号, pp. 17-35, (2013)
14. 小辻寿規, 「まちの居場所の研究——まちの学び舎ハルハウスの事例より」, 小林宗之・谷村 ひとみ編『戦後日本の老いを問い返す』生存学研究センター報告19:79-97, 立命館大学生存学研究センター, (2013)
15. 後藤玲子, 「規範科学としての潜在能力アプローチの可能性について—佐々木公明・徳永幸之, “地域交通と住民の幸福—「アマルティア・センの潜在能力」を反映した地域交通システムの評価—」—」, 『運輸政策研究』, Vol. 14, No. 4, pp. 2-12に対する誌上討議—, 『運輸政策研究』, vol. 15, No2, (2012)
16. 櫻井浩子, 「女性の「ワンパワーメント」再考」, 『生存学』6号: 143-159, (2013)
17. 渋谷光美, 「1980年代のホームヘルプ制度の変容に関する一考察」, 小林宗之・谷村ひとみ編『戦後日本の老いを問い返す』生存学研究センター報告19:35-53, 立命館大学生存学研究センター, (2013)
18. 田中多賀子, 「日本の聴覚障害教育における人工内耳の受けとめ方の変遷」, 『生存学』6号: 50-72, (2013)
19. 谷村ひとみ, 「高齢女性の老後『資源』の違いがもたらす介護期待の違い—階層・資源移転・ライフコースの違いに着目して—」, 『立命館人間科学研究』26: 35-45, (2013)
20. 谷村ひとみ, 「『僅かな資源しか持たない』離別シングルマザーの家族戦略と老後設計——成人子との決別で獲得したひとりの老後——」, 『Core Ethics』9, (2013)
21. 谷村ひとみ, 「正規雇用に就いた離別シングルマザーの自立した老後設計は可能か——選び取っていく『働けるまで働く』というひとりの老後」, 小林宗之・谷村ひとみ編『戦後日本の老いを問い返す』生存学研究センター報告19:98-119, 立命館大学生存学研究センター, (2013)
22. 西沢いつみ, 「1970年代の京都西陣における老人医療対策と住民の医療運動との関わり」, 小林宗之・谷村ひとみ編『戦後日本の老いを問い返す』生存学研究センター報告19: 11-34, 立命館大学生存学研究センター, (2013)
23. 能勢桂介, 「移民の若者の社会的排除」, 『生存学』6号: 128-142, (2013)

24. 橋口昌治・箱田徹・村上慎司, 「債務・人口・保育——都心回帰時代の大阪経済と都市の行方」, 『生存学』6: 336-353, (2013)
25. 濱本真男, 「愛が試される場所—ハンナ・アレント統合教育批判再考」, 『生存学』6号: 174-192, (2013)
26. 藤原信行, 「自殺動機付与・責任帰属活動の達成と、人びとの方法と／しての精神医学的知識」, 『ソシオロギス』第36号, pp. 68-83, (2012)
27. 藤原信行, 「非自殺者カテゴリー執行のための自殺動機付与——人びとの実践における動機と述部の位置」『ソシオロギ』第174号, pp. 125-140, (2012)
28. 堀元樹, 「教育言説としての「自尊感情」の形成過程」, 『生存学』6号: 99-112, (2013)
29. 堀江有里, 「ジェンダー／セクシュアリティ領域科目の課題と可能性——大学における『人権教育』の観点から」, 『生存学』6: 113-127, (2013)
30. 牧昌子, 「高齢基礎年金と特別徴収および対象としない基準額の理論的検証——高齢基礎年金から天引きされる住民税・社会保険料負担が意味するもの」, 小林宗之・谷村ひとみ編『戦後日本の老いを問い返す』生存学研究センター報告19:54-78, 立命館大学生存学研究センター, (2013)
31. 村上慎司, 「生活保護加算制度の経済哲学——衡平性、ニーズ、自立の検討」, 『立命館人間科学研究』第25号, pp. 1-14, (2012)
32. 矢野亮, 「1960年代の住吉における部落解放運動の分岐点——天野事件を中心に」, 『Core Ethics』9, (2013)
33. 矢野亮, 「大阪における『地域に残された人びと』の発見——大阪住吉地区における「老人問題」の問題化の歴史を事例にして—」, 『立命館人間科学研究』27, (2013)
34. 山本由美子, 「現代フランスにおける死産児の死体の処遇」, 『立命館人間科学研究』25: 81-93, (2012)
35. 梁陽日, 「大阪市公立学校における在日韓国・朝鮮人教育の課題と展望——民族学級の教育運動を手がかりに」, 『Core Ethics』9, 2013年3月
36. 由井秀樹, 「学校衛生と石原色覚検査表に関する歴史的検討」, 『生存学』6: 193-205, (2013)
37. 由井秀樹, 「不妊治療を経て特別養子縁組を選択した患者の経験:特別養子縁組成立までのプロセスに着目して」, 『保健医療社会学論集』23(2): 49-58, (2012)

## 図書

なし

## ②論文(査読なし)

### 雑誌論文

1. 天田城介, 「胃ろうの10年——ガイドライン体制のもとグレーゾーンで処理する尊厳死システム」, 『現代思想』40-7:165-181, (2012)
2. 天田城介, 「歴史と体制を理解して研究する——社会学会の体制の歴史と現在」, 『保健医療社会学論集』23-1:56-69, (2012)
3. 天田城介, 「紛争家族化する戦後日本型家族の行方」, 『JIM』22-11:826-827, (2012)
4. 天田城介, 「ポスト経済成長時代の超高齢社会における夢から覚めて」, 『現代思想』40-10:170-186, (2012)
5. 天田城介, 「日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の制度と運用の変更について」, 『保健医療社会学論集』23-1:106-112, (2012)
6. 上野千鶴子, 「おんたちのサバイバル作戦——ネオリベ時代を生き抜くために」, 『文学界』, 文藝春秋社2012.-2013.4連載
7. 上野千鶴子, 「おんなの本を読みなおす」, (1)田中美津『いのちの女たちへ』(2)森崎和江『第三の性』(3)水田宗子『物語と反物語の風景』(4)富岡多恵子『藤の衣に麻の衾』(5)石牟礼道子『苦海浄土』集英社インターナショナルWebサイト, 2012.9-2013.3連載
8. 牛若孝治, 「トランスジェンダーを生きる(1)——『自己物語の記述』による男性性エピソードの分析」, 『対人援助学マガジン』第9号, pp. 187-190, (2012)

9. 牛若孝治, 「トランスジェンダーを生きる(2)——『自己物語の記述』による男性性エピソードの分析」, 『対人援助学マガジン』第10号, pp. 169-172, (2012)
10. 牛若孝治, 「トランスジェンダーを生きる(3)——『自己物語の記述』による男性性エピソードの分析」, 『対人援助学マガジン』第11号, pp. 192-196, (2012)
11. 大野真由子, 「慢性疼痛と「障害」認定をめぐる課題——障害者総合支援法のこれからに向けて」, 川端美季・吉田幸恵・李旭編『障害学国際セミナー2012——日本と韓国における障害と病をめぐる議論』生存学センター報告20: 140-146, (2013)
12. 大野光明, 「大飯原発ゲート占拠・封鎖という『希望』——未完のままの出来事/問い」, 『インパクション』186: 92-105, (2012)
13. 大野光明, 「拒否が切り開く〈政治〉——煽られる東アジアの『緊張』のなかのオスプレイ配備をめぐる」, 『情況』第4期2012年9・10月合併号: 10-20, (2012)
14. 桐原尚之, 「社会事業史のアンチテーゼとなる歴史と障害学」, 川端美季・吉田幸恵・李旭編『障害学国際セミナー2012——日本と韓国における障害と病をめぐる議論』生存学センター報告20: 300-308, (2013)
15. 桐原尚之, 「アジア太平洋地域の精神障害者の連帯に向けて」, 『ノーマライゼーション—障害者の福祉』, 32(12): pp24-25, (2012)
16. 桐原尚之, 「1980年から1987年の精神障害当事者の運動史」, 『病院・地域精神医学』, 55(2): pp54-55, (2012)
17. 桐原尚之, 「東日本大震災によって顕在化された「精神病」者差別」, 『病院・地域精神医学』, 55(1): p97-99, (2012)
18. 桐原尚之, 「医療観察法治療プログラムである『内省プログラム』の批判」, 『精神医療』第四次66号, pp. 138-144, (2012)
19. 桐原尚之, 「実情と条約に即した推進体制を望む」, 『ノーマライゼーション—障害者の福祉』, 32(1): pp24-25, (2012)
20. 桐原尚之・長谷川唯, 「支援された意思決定を巡って——日本国内法の現状と課題」, 川端美季・吉田幸恵・李旭編『障害学国際セミナー2012——日本と韓国における障害と病をめぐる議論』生存学センター報告20:309-318, (2013)
21. クアック・ジョンナン, 「韓国の高等教育における聴覚障害学生支援——法的位置づけとナザレン大学の支援体制を中心に」, 『社会言語学』12:269-282, (2012)
22. クアック・ジョンナン, 「日本における介助制度と現場③——24時間介助制度を促しながら、考える手足論」, 『隠された自立探し』, (障害女性共感、障害女性自立生活センターSUM), 8: 26-29, (2012)
23. 栗原彬, 「原発危機の政治学」, 『PRIME』, 明治学院大学国際平和研究所第35号, pp3-9, (2012)
24. 小泉義之, 「包摂による統治——障害カテゴリーの濫用について」, 『情況・思想理論編』, 情況出版社, 1号, pp. 76-95, (2012)
25. 小泉義之, 「精神と心理の統治」, 『思想』, 岩波書店, 1066号, pp. 58-76, (2013)
26. 小辻寿規, 「孤立させないまちづくりのために——「まちの居場所」をどう支えていくのか」, 『人間会議 2012冬号』154-159, 株式会社宣伝会議, (2012)
27. 後藤玲子, 「デモクラシーの沈黙—非決定性の論理と構造—」, 宮脇昇・玉井雅隆編著『コンプライアンス論から規範競合論へ—ウソの社会的発生から消滅まで—』, 晃洋書房, 157-178, (2012)
28. 後藤玲子・斉藤拓・小林隼人「アメリカ合衆国」、宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編『世界の社会福祉年鑑2012年度版』, 旬報社, pp. 305-363, (2012)
29. 後藤玲子, 「Justice as Reciprocity Reexamined in the context of Catastrophe」, 『言語文化研究』, vol. 24, 4, 「現代正義と支援の思想」, 『言語文化研究』, vol. 24, 4, (2013)
30. 後藤玲子, 「潜在能力アプローチにもとづく視覚障害者の移動潜在能力の測定について—実態調査のための理論と方法—」, IATSS (国際交通安全学会) 編, 『地域公共交通と連携した包括的な生活保障のしくみづくりに関する研究報告書』, 24-37, (2013)

31. 後藤玲子, 「公共的相互性—経済・社会・政治空間」, 後藤玲子編『ノマド・逃がす・ケイパビリティ』(トヨタ財団 2010 年度 研究助成プログラム 研究実施報告書), pp. 26-39, (2013)
32. 後藤玲子, 「ケイパビリティ—本人が選ぶ理由のある生のかたまり」, 後藤玲子編『ノマド・逃がす・ケイパビリティ』(トヨタ財団 2010 年度 研究助成プログラム 研究実施報告書), pp. 40-53, (2013)
33. 後藤玲子, 「補論: 相談支援枠組みとしての潜在能力アプローチ」, 後藤玲子編『ノマド・逃がす・ケイパビリティ』(トヨタ財団 2010 年度 研究助成プログラム 研究実施報告書), pp. 54-77, (2013)
34. 近藤宏, 「気候変動緩和枠組みに動員される先住民」, 『立命館国際言語文化研究』第 23 号, 2013 年
35. 権藤眞由美, 「JDF 被災地障がい者支援センターふくしまにおける提言—交流サロン『しんせい』の取り組みを中心に」, 川端美季・吉田幸恵・李旭編『障害学国際セミナー2012—日本と韓国における障害と病をめぐる議論』生存学センター報告 20: 263-272, 立命館大学生存学センター, (2013)
36. 櫻田和也, 「ポストモダン都市における機械状分布のために」, 『生存学』6: 354-363, (2013)
37. 篠木涼, 「防犯環境都市設計における環境制御と生政治学」, 『生存学』6: 364-378, (2013)
38. 渋谷光美, 「日本のホームヘルパー制度の変遷を通じた障害者施策の一考察—創設期の長野県と東京都を中心に」, 川端美季・吉田幸恵・李旭編『障害学国際セミナー2012—日本と韓国における障害と病をめぐる議論』生存学センター報告 20: 328-337, 立命館大学生存学センター, (2013)
39. 白石清春・野崎泰伸・立岩真也 他, 「討論 (特集 II 災厄に向かう—阪神淡路の時、そして福島から白石清春氏を招いて)」, 『障害学研究』8: 79-84, (2012)
40. 白波瀬達也, 「岐路に立つあいりん地域の多層的セーフネット」, 『生存学』6: 319-335, (2013)
41. 立岩真也, 「開催趣旨 (特集 II 災厄に向かう—阪神淡路の時、そして福島から白石清春氏を招いて)」, 『障害学研究』8: 68-69, (2012)
42. 立岩真也, 「書評: 松井彰彦・川島聡・長瀬修編『障害を問い直す』」, 『季刊社会保障研究』48-2: 240-243, (2012)
43. 立岩真也, 「制度と人間のこと・1」, 『現代思想』40-6: 42-53, (2012)
44. 立岩真也, 「制度と人間のこと・2」, 『現代思想』40-8: 34-45, (2012)
45. 立岩真也, 「制度と人間のこと・3」, 『現代思想』40-9: 52-63, (2012)
46. 立岩真也, 「制度と人間のこと・4」, 『現代思想』40-10: 30-41, (2012)
47. 立岩真也, 「制度と人間のこと・5」, 『現代思想』40-11: 40-52, (2012)
48. 立岩真也, 「制度と人間のこと・6」, 『現代思想』40-15: 56-68, (2012)
49. 立岩真也, 「制度と人間のこと・7」, 『現代思想』40-17: 22-33, (2012)
50. 立岩真也, 「後ろに付いて拾っていくこと+すこし—震災と障害者病者関連・中間報告」, 『福祉社会学研究』9:、81-97, (2012)
51. 立岩真也, 「どれだけをについてのまとめ・4」, 『現代思想』40-5: 34-45, (2012)
52. 立岩真也, 「素朴唯物論を支持する」, 『現代思想』41-2, 14-26, (2013)
53. 立岩真也, 「これからのためにも、あまり立派でなくても、過去を知る」, 『精神医療』第四次 67 号: 68-78, (2012)
54. 長瀬修, 「障害者の権利条約と障害者制度改革への取組み」, 『実践成年後見』41: 47-55, (2012)
55. 長瀬修, 「アジア太平洋障害者の権利を実現するためのインチョン戦略草案」, 『福祉労働』135: 102-104, (2012)
56. 長瀬修, 「障害者の権利委員会第 6 回会期 スペインへの総括所見 (下)」, 『DPI われら自身の声』28-2: 32-33, (2012)
57. 長瀬修, 「ミャンマーの知的障害者本人活動の動き」, 『福祉労働』, 136: 102-103, (2012)
58. 長瀬修, 「障害者の権利条約における障害児と教育」, 『共生のインクルーシブ教育へ 私たちの考え方』, pp59-74, (2012)
59. 長瀬修, 「障害学と教育—社会モデルと障害の文化」, 『教育と文化』, 69: 92-107, (2012)
60. 長瀬修, 「障害者の権利委員会第 8 回会期 中国への総括所見 (1)」, 『DPI われら自身の声』28-3, pp38-40, (2012)
61. 長瀬修, 「障害者の権利委員会第 8 回会期 中国への総括所見 (2)」, 『DPI われら自身の声』28-4, pp. 34-36, (2012)
62. 長瀬修, 「障害者の権利条約の国際的実施の現状—第 5 回締約国会議と第 8 回障害者の権利委員会」, 『ノーマラ

- イゼーション』32-12:47-49, (2012)
63. 長瀬修, 「第八回障害者の権利委員会—中国とハンガリーの報告の検討」, 『福祉労働』137:126-129, (2012)
64. 長瀬修, 「障害と開発に関するハイレベル会合」, 『福祉労働』138:138-139, (2012)
65. Osamu, NAGASE, “Promotion of Self-Advocacy of Persons with Intellectual Disabilities: Case of Myanmar,” *Ars Vivendi Journal*, vol.4, pp.13-17, (2013)
66. 西成彦, 「カンナニの言語政策」, 『立命館大学産業社会論集』, 立命館大学産業社会学会, 第48巻第1号, pp.31-46, (2012)
67. 西成彦, 「比較植民地文学研究の基盤整備 (1) 「引揚者」の文学」, 『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 第24巻第4号, pp.111-114, (2013)
68. Paul Dumouchel, 《Political Violence and Democracy》 in *Ritsumeikan Studies in Language and Culture*, 23-4:117-123, (2012)
69. Paul Dumouchel, “Revenge or Justice? Obama gets Osama” in *Contagion*, 19:9-17, (2012)
70. Paul Dumouchel, “Rhétorique et passions chez Hobbes” in *Penser les passions à l’âge classique* (L. Desjardins & D. Dumouchel, eds.) (Paris: Hermann, 2012) pp. 53-66, (2012)
71. Paul Dumouchel, “Should Empathic Social Robots have Interiority?” (with L. Damiano & H. Lehmann) in *Social Robotics* (Shuzhi Sam Ge, Oussama Khatib, John-John Cabibihan, Reid Simmons & Mary-Anne Williams, Eds), (Springer-Verlag: Berlin-Heidelberg, 2012), pp. 268-277, (2012)
72. 松原洋子, 『科学史研究』初期の編集・発行状況——創刊から休刊まで(1941~1944年)』, 『科学史研究』51:102-105, (2012)
73. 山口翔・青木千帆子・植村要・松原洋子「電子書籍のアクセシビリティに関する出版社アンケート」『国際公共経済研究』第23号, 244-255頁, (2012)
74. 松原洋子・植村要「未校正書籍テキストデータの読書アクセシビリティ—大学図書館における読書障害学生支援に向けて—」『立命館人間科学研究』第26号, 99-110頁, (2013)
75. 三野宏治, 「脱精神科病院『アメリカの脱精神科病院①』」, 『対人援助学マガジン』Vol. 9, 対人援助学会, pp.153-164, (2012)
76. 三野宏治, 「脱精神科病院『アメリカの脱精神科病院②』」, 『対人援助学マガジン』Vol. 10, 対人援助学会, 134-145, (2012)
77. 三野宏治, 「脱精神科病院『アメリカの脱精神科病院③』」, 『対人援助学マガジン』Vol. 11, 対人援助学会, 156-168, (2012)
78. 三野宏治, 「脱精神科病院『わが国の脱精神科病院①』」, 『対人援助学マガジン』Vol. 12, 対人援助学会, 174-185, (2013)
79. 村上潔, 「女の領地戦」, 『生存学』6: 379-393, (2013)
80. 村上しほり, 「戦後神戸市における盛り場の変遷とヤミ市の形成」, 『生存学』6: 278-297, (2013)
81. 稲津秀樹・本岡拓哉・中西雄二・野上恵美, 「神戸永田の記憶風景を描きなおす」, 『生存学』6: 298-318, (2013)
82. 森下直紀, 「水俣病事件の障害学——「住民手帳」という実践モデルについて」, 『障害学国際セミナー2012——日本と韓国における障害と病をめぐる議論』, 生存学研究センター報告20, 立命館大学生存学研究センター, 319-27, (2013)
83. 藤原信行, 「スポーツ新聞記事にみる死者への自殺動機付与とカテゴリー執行——〈女子アナ〉のあるべきキャリア/述部をめぐって」, 『箕面学園福祉保育専門学校研究紀要』4: 13-23, (2013)
84. 堀江有里, 「他者の〈死〉という出来事——クィアすることをめぐって」, 『福音と世界』2013年02月号: 28-33, (2013)
85. 堀江有里, 「女がロックを生きるとき——ハードロックバンドSHOW-YAのフェミニスト的読解」, 『人権教育研究』21, (2013)
86. 堀智久, 「英国における出生前診断と当事者のケア——ARCの事例を手掛かりに」, 『生存学研究センター報告20』,

pp. 292-299, (2013)

87. 横田陽子, 「日本における環境放射能モニタリング成立史」, 『生物学史研究』 87 : 39-43, (2012)
88. 渡辺克典, 「愛知の／から障害者運動を考える (特集 I 愛知における障害者運動——労働をめぐるとりくみと現代的意義)」, 『障害学研究』 8 : 10-14, 明石書店, (2012).
89. 渡辺克典, 「映画評 国民国家形成における吃音と「スピーチ」(『英国王のスピーチ』)」, 『社会言語学』 第 12 号, 261-268, (2012)

## 図書

1. 赤阪麻由, 「当事者研究のあり方」, サトウタツヤ・若林宏輔・木戸彩恵(編) 『社会と向き合う心理学—文化心理学を基礎として』, 新曜社, pp167-180, (2012)
2. 荒木重嗣・宮路絵里編, 『認知症ケアのブリーフコーチング入門』, ヘルシステム研究所, (2012)
3. 天田城介, 「自律」「PTSD」(事典項目執筆), 大澤真幸・吉見俊哉・鷺田清一編集委員、見田宗介編集顧問, 『現代社会学事典』, 弘文堂, (2012)
4. 新・社会福祉士養成講座編集委員会編, 編集委員: 天田城介・後藤隆・潮谷有二, 『社会調査の基礎 [第3版]』 (『新・社会福祉士養成講座』 第5巻), 中央法規出版, (2013)
5. 上野千鶴子, 「『当事者』研究から『当事者研究』へ」, 副田義也編『闘争性の福祉社会学』, 東京大学出版会, (2013)
6. 上野千鶴子, 『みんな「おひとりさま」』, 青灯社, (2012)
7. 上野千鶴子、湯山玲子, 『快樂上等!』, 幻冬舎, (2012)
8. 上野千鶴子、小笠原文雄, 『上野千鶴子が聞く、小笠原先生、ひとりで家で死ぬますか?』, 朝日新聞出版, (2013)
9. 上野千鶴子、盛山和夫、武川正吾編, 『公共社会学』 I&II, 東京大学出版会, (2012)
10. 宇佐見耕一、小谷眞男、後藤玲子、原島博編, 『世界の社会福祉年鑑 2012 年度版』, 旬報社, pp. 1-726, 2012.
11. 佐藤量, 「大連における日本人学校への「留学」——中国人の日本留学をめぐる多様性」, マイグレーション研究会編, 『1930年代における来日留学生の体験』, 不二出版, pp173-192, (2012)
12. 佐藤量, 「生活者から見た上海 100 年の歴史」, 『東方』, 東方書店, 379 号, pp. 32-36, (2012)
13. 谷村ひとみ, 「1980 年代の 20 歳代女性が目指させられた『ふつうの結婚』」, 安田裕子・サトウタツヤ編著『TEM でわかる人生の径路——質的研究の新展開』, 誠信書房, 98-119, (2012)
14. 堀田義太郎・立岩真也, 『差異と平等——障害とケア／有償と無償』, 青土社, (2012)
15. 渡辺公三, 「モース」「レヴィ=ストロース」「モーガン」「インセスト」「交叉イトコ」「認証」等 13 項目 (事典項目執筆), 大澤真幸・吉見俊哉・鷺田清一編集委員、見田宗介編集顧問, 『現代社会学事典』, 弘文堂, (2012)
16. クアック・ジョンナン、キム・チャンガル、シン・ソンミ、チョウ・ジョンミン, 『教職員のための障害学生支援ガイド』, (事業名: 2012 年度障害学生サポート支援事業 (嶺南圏) 発行: テグ大学障害学生支援センター), (2012)
17. クアック・ジョンナン、キム・チャンガル、シン・ソンミ、チョウ・ジョンミン, 『学生のための障害学生支援ガイド』 事業名: 2012 年度障害学生サポート支援事業 (嶺南圏) 発行: テグ大学障害学生支援センター), (2012)
18. 栗原彬 (杉田敦らと共著), 『3.11 に問われて—ひとびとの経験をめぐる考察』, 岩波書店, 209p, (2012)
19. 小泉義之, 『生と病の哲学』, 青土社, 390p, (2012)
20. Tatsuya Sato, Mari Fukuda, Tomo Hidaka, Ayae Kido, Miki Nishida and Mayu Akasaka, 2012, 「The Authentic Culture of Living Well: Pathways to psychological well-being」, 『Oxford Handbook of Culture and Psychology』, Oxford University Press, pp1078-1092, (2012)
21. 石田おさむ・濱野佐代子・花園誠・瀬戸口明久, 『日本の動物観——人と動物の関係史』, 東京大学出版会, 第 7 ~9 章, (2013)
22. 安積純子・尾中文哉・岡原正幸・立岩真也, 『生の技法——家と施設を出て暮らす障害者の社会学 第 3 版』, 生活書院, (2012)
23. 立岩真也・有馬斉, 『生死の語り行い・1——尊厳死法案・抵抗・生命倫理学』, 生活書院, (2012)
24. 天島大輔, 『声に出せないあ・か・さ・た・な: 世界にたった一つのコミュニケーション』, 生活書院, (2012)



25. 長瀬修, 「第6章 教育」, 『障害者の権利条約と日本』, 長瀬修・東俊裕・川島聡編, 生活書院, pp145-181, (2012)
26. 長瀬修, 「国連の動き—障害者権利条約の実施を中心に」, 『発達障害白書 2013年版』, 158頁, 2012年
27. 長瀬修, 「第6章 教育」, 『障害者の権利条約と日本』, 長瀬修・東俊裕・川島聡編, 生活書院, pp145-181, (2012)
28. 西成彦, 翻訳および「解説」 ショレム・アレイヘム 『牛乳屋テヴィエ』, 岩波文庫, 374p, (2012)
29. 西成彦, 翻訳および「解題」 アイザック・バシエヴィス・シンガー 『不浄の血』, 河出書房新社, 315p, (2013)
30. 堀江有里, 「ジェンダーと人権—性をめぐる抑圧と解放」, 古橋エツ子編著 『新・初めての人権』 法律文化社, pp. 120-129, (2012)

## 2) 学会発表

### ①海外での発表

1. Mitsuaki ONO, "Discourses on Okinawa as "Colony" in 1960s and 1970s Japan", September 6-7, 2012, the British Association for Japanese Studies, University of East Anglia Campus in Norwich, UK
2. Miki Kawabata, Attitudes towards Medical Patients in the Japanese Public Bath Movement, 2012. 9, British Association of Japanese Studies (East Anglia University, England)
3. 後藤玲子 (報告) "Securing Basic Capability for All," (with Naoki Yoshihara), 11th Meeting of Society for Social Choice and Welfare, New Delhi, august 17 - 20, 2012
4. 後藤玲子 (報告) "The possibility of Constructing Group Appraisals of Capabilities—Focusing on the "Capability to Move" of Persons with Limited Vision," HDCA International Conference 2012, Jakarta, 5-7 September 2012.
5. Kenichi Bansho, "Colonial linkage from the viewpoint of agricultural colonization theory in Hokkaido" , September 6-7, 2012, the British Association for Japanese Studies, University of East Anglia Campus in Norwich, UK.
6. NAGATA, Atsumasa. The Present Situation of Filipino Migrants in Japan. The 9th International Conference on the Philippines. Session 7, Room 101, the Kellogg Center at Michigan State University, 4.00-5.30, Oct. 29, 2012. Committee of International Conference on the Philippines.
7. Paul Dumouchel, June, 2012, "The Modern State and the Myth of 'Political Violence' " in The European Wars of Religion An Interdisciplinary Reassessment of Sources, Myths and Interpretation, University of Innsbruck, Austria
8. Paul Dumouchel, June, 2012, "Violence politique et vérité" in La guerre d' Algérie 50 ans après, Espace Culturel du Judaïsme, Toulouse, France.
9. Paul Dumouchel, August 2012, "La catastrophe entre vie et justice" in Le Moment du vivant, Centre Culturel International de Cerisy-la-Salle, France.
10. Paul Dumouchel, October 2012 "Should Empathic Social Robots Have Interiority?" in International Conference on Social Robotics 2012 (ICSR2012), Chengdu, Republic of China.
11. Yukiko Matsuda, The Three Phases of Geisha Common-law family relationships in the Entertainment Quarters of Kyoto City: Mother-Daughter, Elder Sister-Younger Sister, Husband-Wife, 6 September 2012, British Association for Japanese Studies Conference 2012 Norwich/UK (University of East Anglia, Thomas Paine Study Centre)
12. Murakami Shinji "An application of the capability to the Japanese public assistance additional payments: a study of needs and agency," 2012 Sep, Human Development and Capability Association Conference, Jakarta.
13. Murakami Shinji "Basic Income's Fund and Equity of Taxation: A defense of progressive income tax without tax deduction," 2012 Sep, 14th International Congress of the Basic Income Earth Network, Munich

## ②国内での発表

1. 青木秀光, 「統合失調症の子を抱える親たちの多様性」, オーラル・ヒストリー学会第10回大会・椋山女学院大学, 2012年9月8日
2. 赤阪麻由, 「難病者への多層的支援システム構築に向けた「共同発信」の試み—多様なアクターの実践とその宛先に注目して」, (指定討論) 日本質的心理学会第9回大会・東京都市大学, 2012年9月1日
3. 赤阪麻由, 「慢性疾患患者のケアのあり方の検討—ピア・サポートの場の生成と記述から」, (ポスター発表) 日本質的心理学会第9回大会・東京都市大学, 2012年9月2日
4. 赤阪麻由, 「当事者性を持つ「私」でいるために」(話題提供) 日本人間性心理学会第31回大会自主シンポジウム『「当事者性」を臨床に生かす』・宇部フロンティア大学, 2012年9月21日
5. 赤阪麻由, 「慢性疾患患者のサポート・グループの取り組み—当事者性をもつ研究者・実践者のあり方に焦点をあてて」, (口頭発表) 日本人間性心理学会第31回大会, 宇部フロンティア大学, 2012年9月22日
6. 安部彰, 「規範的社会理論におけるヒューム哲学の可能性—R・ローティの理説を手がかりに」, ヒューム研究学会第23回例会・キャンパスプラザ京都, 2012年9月6日
7. 大野藍梨, 「M. コンデの『風の巻く丘』におけるクレオール性」, 日本比較文学会第48回関西大会・立命館大学, 2012年11月17日
8. 泉谷瞬, 「愛情の要請—姫野カオルコの介護作品を中心に—」, 「日本近代文学会」秋季大会・ノートルダム清心女子大学, 2012年10月28日
9. 大野真由子, 「障害者福祉制度の谷間に落ちる難病者の支援制度設計における具体的課題」, 障害学会第9回大会・神戸大学, 2012年10月27日
10. 大野光明, 「沖縄の日本『復帰』をめぐる日本『本土』における平和運動—ベ平連の『沖縄闘争』を事例に」, 日本平和学会2012年春季研究大会, 2012年6月23日
11. Mitsuaki Ohno, "Transnational Connections between Peace Movements of Okinawa and America in 1960s and 1970s", 24-28 November, 2012, International Peace Research Association Global Conference, Mie University, Japan
12. 角崎洋平, 「借手の脆弱性と債権管理—生活協同組合による福祉的貸付の検証」, 社会政策学会第124回大会, 2012年5月26日
13. 角崎洋平, 「リベラリズムは過酷か?—福祉社会における「自由」と「責任」の再定位・試論」, 福祉社会学会第10回大会, 2012年6月3日
14. Miki Kawabata, "Introduction of Bathing as a Therapy in Modern Japan 2012.12, The Sixth Conference of the Asian Society for the History of Medicine (Keio University, Yokohama)"
15. 桐原尚之, 「法律家は精神障害者をどう見てきたか」, 第55回病院・地域精神医学会大会一般演題・名古屋大学豊田講堂, 2012年10月13日
16. 桐原尚之・白田幸治, 「自殺を阻止するための強制的介入は正当化できるか(素描)—措置入院に反対する『精神病』者運動の思想から生命倫理を問う」, 日本生命倫理学会第24回年次大会自由報告・立命館大学, 2012年10月28日
17. 桐原尚之・安原荘一, 「歴史障害学試論」, 第9回障害学会大会ポスター報告・神戸大学, 2012年10月27日
18. 栗原彬 (×山下浩志), 「境界を生き抜く」, 日本ボランティア学会北浦和大会<境界を生き抜く>, 埼玉県立近代美術館, 2012年6月30日
19. 後藤玲子, (報告) 「潜在能力アプローチにもとづく医療資源配分の社会的選択—理論と臨床—」, 日本生命倫理学会第24回年次大会公募シンポジウム「QALY(Quality-Adjusted Life Year)と医療資源配分—その倫理的基盤—」, 立命館大学, 2012年10月27・28日
20. 近藤宏, 「皮膚という表面」, 日本文化人類学会・広島大学, 2012年6月23日
21. 小出治都子, 「キッズコスメからみる化粧文化—衛生から嗜好性へ」, 日本繊維製品消費科学会2012年年次大会・文化学園大学, 2012年6月23日

22. 権藤眞由美, ポスター報告「ヴェトナムハノイ IL センターの現状と課題」, 障害学会第9回大会・神戸大学, 2012年10月27日
23. 櫻井悟史, 「日本統治下台湾における笞刑論争再考」, 日本犯罪社会学会 (2012年度) 第39回大会, 一橋大学国立キャンパス, 2012年10月27日
24. 櫻井悟史, 「明治期の刑罰体制の再検討」, 日本社会学会 (2012年度) 第85回大会, 札幌学院大学第1キャンパス, 2012年11月3日
25. 佐藤量, 「生活者から見た上海100年の歴史」, 上海史研究会, 日本大学, 2012年7月7日
26. 内田宮子・渋谷光美, 「『人間理解』を問い直す——国際的文学作品を通して」, 第20回日本介護福祉学会, 2012年9月22日
27. 立岩真也, 「生存学と死生学」, 日本生命倫理学会第24回年次大会大会企画シンポジウムⅡ・シンポジスト, 立命館大学, 2012年10月27日
28. 立岩真也, 「飽和と不足の共存について」, 日本生命倫理学会第24回年次大会対会長講演, 立命館大学, 2012年10月27日
29. 立岩真也, 「3.11以降の社会と理論」, 日本社会学理論学会大会第7回シンポジウムコメンテーター, 立命館大学, 2012年9月1日
30. 田中壮泰, 「カフカと女性労働力」, シンポジウム『変身』から100年の比較文学」, 日本比較文学会第48回関西大会, 立命館大学, 2012年11月17日
31. 富田敬大, 「モンゴルの都市周辺地域における家畜預託と体制転換」, 日本文化人類学会第42回研究大会, 広島大学, 2012年6月23日
32. 中倉智徳, 「発明からイノベーションへの移行に関する社会学史的考察」, 日本社会学理論学会第7階大会, 立命館大学, 2012年9月1日
33. 中倉智徳, 「経済とイノベーションをめぐる言説の批判的考察にむけて」, 日本社会学会第85回大会, 札幌学院大学, 2012年11月3日
34. 中倉智徳, 「ガブリエル・タルドの経済思想——贈与と貸借めぐって」, 経済学史学会関西西部会第163回例会, 名古屋市立大学, 2012年12月15日
35. 中田喜一, 「オンラインセルフヘルプの可能性」, 第85回日本社会学会大会自由報告, 札幌学院大学, 2012年11月3日
36. 西成彦, 「<引揚者>の文学を考える」, 日本比較文学会全国大会, 大正大学, 2012年6月10日
37. 西成彦, 「小説の一言語使用～中西伊之助から金石範まで～」, 立命館大学国際言語文化研究所冬季企画「大日本帝国植民地と文学の言語」, 立命館大学, 2013年2月24日
38. 長谷川唯, 「重度障害者の地域生活をめぐる制度的課題——独居ALS患者の在宅独居生活支援活動を手がかりとして」, 第17回日本難病看護学会学術集会一般演題発表, センオン杉並, 2012年8月31日
39. 長谷川唯, 「重度障害者の地域生活における制度的課題——独居ALS患者の一事例を通して」, 第26回日本地域福祉学会大会, 熊本学園大学, 2012年6月9日
40. Paul Dumouchel, July 2012, 《Heterogeneity and time》 in International Symposium Contemporary Psychopathologies and Civilization, Kyoto University, Japan.
41. 長瀬修, 基調報告「障害者の権利条約」, 成年後見法学会 第9回学術大会, 明治大学, 2012年4月10日
42. Paul Dumouchel, July 2012, “Lynching in Literature, The Oxbow Incident” in Apocalypse Revisited: Japan, Hiroshima and the Place of Mimesis, International Christian University, Tokyo, Japan
43. Paul Dumouchel, July 2012, “Response to my critics, Round table on Paul Dumouchel’s Le Sacrifice Inutile” in Apocalypse Revisited: Japan, Hiroshima and the Place of Mimesis, International Christian University, Tokyo, Japan.
44. 堀田義太郎, 「コメント」, 大会校企画ワークショップ「性と生殖の倫理学」, 日本生命倫理学会第24回年次大会, 立命館大学, 2012年10月27日

45. 堀江有里, 「性規範への〈問い〉学と相互行為の可能性——大学における人権教育を通して」, 日本人権教育研究会第13回研究大会, 2012年8月3日
46. 堀江有里「〈問い〉という営為の可能性——レズビアンと死、そこから照射される生をめぐって」, クィア学会第5回大会, 2012年11月25日
47. 松田有紀子, 「『女の街』を生きぬく: 京都花街におけるお茶屋の「商売感覚」に着目して」, 第46回日本文化人類学会, 広島大学, 2012年6月24日
48. 松原洋子, 「女性身体の医療化のポリティクスをいかに論じるか——横山美和「女子高等教育における「月経」論争—クラークとジャコービー—の栄養代謝論をめぐって」へのコメント」, 生物学史研究会(日本科学史学会生物学史分科会), 東京大学, 2012年9月22日
49. 村上慎司, 「給付付き税額控除と生活保護制度の代替/補完関係に関する規範的考察」, 第124回大会社会政策学会, 駒沢大学, 2012年5月26日
50. 梁説, 「自らの文化を創りだす人たち」, 第26回韓国日本近代学会, 立命館大学, 2012年11月10日
51. 由井秀樹, 「配偶子提供、代理懐胎における『子の福祉』: AID出生者の事例から」, 日本生命倫理学会第24回年次大会, 立命館大学, 2012年10月27日
52. Yoko YOKOTA, The Osaka Municipal Hygienic Laboratory and Nutritional Science in 1920s-1930s, 2012. 12, The Sixth Conference of the Asian Society for the History of Medicine (Keio University, Yokohama)
53. 吉田一美史「終戦直後の日本における乳児保護——寿産院事件を手がかりに」, 第31回日本医学哲学・倫理学会大会, 金沢大学, 2012年11月18日
54. 吉田幸恵, 「日本統治下朝鮮ハンセン病政策の考察」, 日本社会学会第85回大会, 札幌学院大学, 2012年11月3日
55. 渡辺克典, 「シンポジウム「施設の現在」のねらい」, 東海社会学会第5回大会, 愛知大学, 2012年7月14日

### 3) 省庁、学会、財団などの表彰

なし

### 4) 外部資金獲得(競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等)

1. (競争的資金) 小泉義之, 科学研究費補助金 基盤研究(C) (H21-25), 日本学術振興会, 「病の総合的研究を媒介とした哲学・倫理学の再検討と再構成」, 小泉義之(代表), 計351万円
2. (競争的資金) 西成彦, 科学研究費補助金 基盤研究(C) (H24-26), 日本学術振興会, 「比較植民地文学の基盤整備」, 西成彦(代表), 100万円

### 5) 特許

#### ①出願

なし

#### ②取得

なし

### 6) その他(報道発表、講演会等)

#### ①報道発表

1. 桐原尚之, 「我々の声を形にする」, 2012年1月2日、福祉新聞 2012年1月2日号(第2557号)
2. 立岩真也, 「書評: 美馬達哉『リスク化される身体——現代医学と統治のテクノロジー』」, 北海道新聞, 2013年2月3日朝刊
3. 立岩真也, 「命の技術、どう付き合う——『出生前診断』『iPS細胞』」(コメント)、朝日新聞, 2012年11月5日朝刊
4. 立岩真也, 「法制化は不必要」, 共同通信, 2012年10月25日配信記事
5. 立岩真也, 「死の自己決定について」, 中外日報, 2012年10月4日朝刊
6. 立岩真也, 「生きられる世に変えよう——生存学を研究する立岩真也さん『死に急ぐことを勧める風潮』に疑問」,

読売新聞大阪本社版, 2012年5月24日夕刊

7. 立岩真也, 「ALS 介護拡大義務づける和歌山地裁判決」(コメント), NHK ニュース (近畿), 2012年4月25日
8. 「原発事故 科学者は隠すな」, 京都新聞, 2012年10月29日
9. 「外国人や障害者災害時支援探る」, 京都新聞, 2013年1月12日
10. 「災害弱者 みんなで支援」, 京都新聞, 2013年1月12日
11. 「弱者を通じて震災考える」, 産経新聞, 2013年1月15日
12. 「べんがら格子のむこうから 生存学」, 京都新聞, 2013年1月31日

## ②講演会

1. 栗原彬, 「日本社会の現在-3.11 が照らし出したもの」, かわさき市アカデミー: 政治・社会講座, 川崎市生涯学習プラザ, 2012年10月1日から11月12日まで (計6回の連続講演)
2. 栗原彬, 「生きづらさを超えて」, <「生きづらさ」を超えて>, 北海道大学大学院教育学研究院, 北海道大学, 2012年11月2日
3. 栗原彬, 「異分野のボランティア」, <学びほぐす>, とよなか国際交流協会, とよなか国際交流センター, 2012年10月20日
4. 後藤玲子, (招待講演) March, 18-20, 2013, “Economic Thought of Cambridge and LSE, and the Foundations of the Welfare State” (Grants-in-Aid for Scientific Research (A)), March 18-20, 2013, Hitotsubashi University.
5. 立岩真也, 「政権交代以後——従来にならぬ組織が編成され、案は出された、しかし」, 『講演会: 日本障害者総合福祉法制定推進への障害者団体の活動現状、役割、そしてこれからの変化と展望』, 韓国・ソウル市, 2012年11月
6. 長瀬修, 「障害者の権利条約と 障害者制度改革 ~移動権~」, 交通エコロジー・モビリティ財団勉強会, 東京, 2012年4月5日
7. 長瀬修, ” Disability Policy Reform in compliance with the CRPD -case of Japan”, June 30 2012, International Forum on the Development of the Disabled, (Research Institute of the Disabled, Renmin University of China 中國人民大學)
8. 長瀬修, 「知的障害のある本人と 障害者の権利条約」, 東京都知的障害者育成会平成24年度大会, なかのZERO, 2012年7月13日
9. 長瀬修, 「障害者制度改革の課題と展望 ~障害者の権利条約~」, 平成24年度 神奈川県盲ろう者通訳・介助員現任研修, 神奈川県聴覚障害者福祉センター, 2012年7月31日
10. 長瀬修, 「障害者の権利条約 制度改革の課題」, 平成24年度 川越市障害者福祉施設連絡協議会学習会, 川越市民会館, 2012年8月29日
11. 長瀬修, 「障害者の権利条約に見る「主体」としての権利 —パラダイムの転換の軌跡—」, 第8回全国大会基調シンポジウム, 日本臨床発達心理士会, 東京ビックサイト, 2012年9月15日
12. 長瀬修, 「障害者の人権 ~障害者の権利条約~」, 平成24年度人権啓発指導者養成研修会, 広島YMCA 国際文化センター, 2012年10月17日
13. 長瀬修, 「障害者の権利条約 国内外の課題」, 大田区障害者条約案を作ってしまう会学習会, エセナおおた, 2012年10月21日
14. 長瀬修, 「残疾人社会福利政策与服务研讨会暨第六届中国残疾人事业发展论坛 日本の障害者政策の歴史的発展と障害者の権利条約の実施」, 南京大学, 2012年11月3日
15. 長瀬修, 「障害者の権利条約 (CRPD) —差別禁止、合理的配慮、障害者雇用—」, 平成24年度障害者週間セミナー 芝大門人権講座, 国立オリンピック記念青少年総合センター, 2012年12月7日
16. 長瀬修, 「障害者: 社会と文化」, 多文化共生を考える コミュニティ支援のための公開セミナー, 御茶ノ水女子大学, 2012年12月12日
17. 長瀬修, 「障害者の権利条約 —差別禁止、合理的配慮、障害者雇用—」, 平成24年度第2回茨城県育成会主催研

修会，茨城県総合福祉会館，2013年3月5日

18. 長瀬修，「勇気100倍！みんなでまなぼう障害者の権利条約学習会障害者の権利条約ってなに？」，全日本手をつなぐ育成会，東京都台東区松が谷福祉会館，2013年3月10日
19. 西成彦，「フロイトの現代性——子どもがぶたれる世界の構造」，立命館土曜講座，立命館大学末川記念会館，2012年11月24日
20. 松原洋子，「戦後日本の医学史を斬る「母体保護」と「優生学」の狭間で」(招待講演)，まちだ市民大学 HATS 公開講座，町田市生涯学習センター，2012年4月30日
21. 梁陽日，「中学校生活から自分の幸せをつくる方法を学ぶ～自分を大切に、エンパワメントをかがやかせよう！！～」，東大阪市立柏田中学校1年生学習会講師，東大阪市立柏田中学校，2012年5月9日
22. 梁陽日，「ちがいを豊かさに～在日外国人と企業による多民族・多文化共生社会の創造をめざして」，大阪府商工労働部「公正採用選考人権啓発推進員」新任・基礎研修講師，大阪府立労働センター，2012年5月16日
23. 梁陽日，「私から始まるエンパワメント」～エンパワメントを基盤にした臨床指導と「ケアする人のケア」をめざして～，『ケアする人のケア』～ワークショップを通してエンパワメント実現の意識化・組織化を学ぶ～」独立行政法人国立病院機構本部中国四国ブロック副看護部長研修会講師，独立行政法人国立病院機構本部中国四国ブロック事務所，2012年5月26日
24. 梁陽日，「生徒のエンパワメントとグループ・ダイナミクスを育む～エンパワメントを基盤にした教育支援と自立の居場所としての学校創りのために～」，大阪府立西成高校教職員研修講師，大阪府立西成高校，2012年6月27日
25. 梁陽日，「子どもの教育支援の充実と共に生きる学校園の展望を考える～多様性を尊重する教育と学校文化の充実のために～」，東大阪市立柏田中学校校区研修講師，東大阪市立柏田中学校，2012年7月11日
26. 梁陽日，「私からはじまるエンパワメント～発達障害を持つ人たちの支援と展望を考える～」，NPO法人チャイルズ定例会研修講師，NPO法人チャイルズ事務所，2012年7月21日
27. 梁陽日，「学生・教員のための実践心理Ⅰ」，「学生・教員のための実践心理Ⅱ」，大阪府専修学校各種学校連合会新任教員研修会講師，大阪市立総合生涯学習センター，2012年8月2日
28. 梁陽日，「学生・教員のための実践心理Ⅲ」，「不登校生への指導のあり方と教育におけるメンタルサポートを学ぶ」，大阪府専修学校各種学校連合会新任教員研修会講師，大阪市立総合生涯学習センター，2012年8月3日
29. 梁陽日，「職業適性検査から進路支援を考える～すべての生徒のエンパワメントと確かな学力・進路支援の充実のために～」，東大阪市立柏田中学校夏季研修講師，東大阪市立柏田中学校，2012年8月10日
30. 梁陽日，「子どものエンパワメントを育む居場所としての学校創りをめざして」，東大阪市立孔舎衛中学校校区教職員研修会講師，東大阪市立日新高校，2012年8月10日
31. 梁陽日，「エンパワメントのための教育の課題と展望を考える」，東大阪市立柏田中学新任教員研修会講師，2 東大阪市立教育センター，2012年8月23日
32. 梁陽日，「エンパワメント志向の若者支援の課題と展望について～グループダイナミクス(集団力学)の視点で若者支援の居場所づくりを考える～」，大阪府福祉事務所職員研修講師，大阪府岸和田子ども家庭センター，2012年10月2日
33. 梁陽日，「エンパワメント志向の若者支援の課題と展望について～グループダイナミクス(集団力学)の視点で若者支援の居場所づくりを考える～」，豊中市家庭訪問総合支援士養成講座講師，豊中市立労働会館，2012年10月11日
34. 梁陽日，「私から始まるエンパワメント～エンパワメントを基盤にした臨床指導と「ケアする人のケア」をめざして～」，「ケアする人のケア～ワークショップを通してエンパワメント実現の意識化・組織化を学ぶ～」，岩国医療センター看護管理研修会講師，於独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター，2012年10月13日
35. 梁陽日，「職業適性検査/ユニバーサル・デザイン/指導記録の方法を考える～すべての生徒の確かな社会的自立の支援充実のために～」，東大阪市立柏田中学校教職員研修講師，東大阪市立柏田中学校，2012年10月15日
36. 梁陽日，「私から始まるエンパワメント(生きる力)～社会的自立の力を育むために～」，兵庫大学人権教育講演

会講師，兵庫大学，2012年10月17日

37. 梁陽日，「私から始まるエンパワメント～共に生きる仲間づくりの学びへようこそ～」，大阪女学院大学人権教育講座「いじめ」分科会講師，大阪女学院大学，2012年10月25日～26日
38. 梁陽日，「学力・授業支援のチェックリスト/カルテ作成検討」，東大阪市立柏田中学校教職員研修講師，東大阪市立柏田中学校，2012年11月1日
39. 梁陽日，「日本における差別問題を考える」，関西学院大学国際学部李ゼミ・ゲストティーチャー，関西学院大学，2012年12月4日
40. 梁陽日，「エンパワメント志向の若者支援の課題と展望について～グループダイナミクス(集団力学)の視点でいじめ問題解決の展望を考える～」，神戸大学震災救援隊いじめ問題学習会講師，神戸大学，2012年12月12日
41. 梁陽日，「効果のある学校創りのための課題と展望を考える」，東大阪市立柏田中学教職員研修会講師，東大阪市立柏田中学校，2012年12月28日
42. 梁陽日，「在日外国人学生等の進路事象から大学の教育支援体制を考える」，関西学院大学人権教育研究室「在日外国人の人権保障のために大学が果たすべき役割についての研究」定例会講師，関西学院大学，2013年1月12日
43. 梁陽日，「今後の大学教育の課題と展望～学生の社会的自立(エンパワメント)を支援する居場所構想について～」，兵庫大学経済情報学部教授会研修講師，兵庫大学，2013年1月30日
44. 梁陽日，「私から始まるエンパワメント～エンパワメントを基盤にした臨床指導と『ケアする人のケア』をめざして～」，『ケアする人のケア』～ワークショップを通してエンパワメント実現の意識化・組織化を学ぶ～，独立行政法人国立病院機構本部中国四国ブロック内看護教員フォローアップ研修会講師，独立行政法人国立病院機構本部中国四国ブロック事務所，2013年3月2日
45. 吉田幸恵，「韓国ハンセン病政策——定着村の成立と現在」(特別講義)，熊本学園大学，2013年1月
46. 横田陽子，「地方衛生研究所の地方独立行政法人化を考える」(招待講演)，大阪府立公衆衛生研究所の府立存続と発展をめざす会設立総会記念講演，2013年1月11日
47. 横田陽子，招待講演「試験検査室の成立—日本の衛生行政の歴史」，第25期科学史学校(東京)，2012年6月
48. 渡辺公三，「大地は人間の口をかりて神話を語る」，朝日カルチャースクール講義，2013年2月23日および3月9日

### ③その他

1. 赤阪麻由，「難病患者支援と心理学：心理学の視座からの当事者主体の支援のあり方—ピア・サポートの場の記述から」，厚労科研費西澤班分科会—Ⅲ「希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究」班会議，JA 共済ビルカンファレンスホール，2012年12月14日
2. 天田城介，「日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の制度と運用の変更について」，『保健医療社会学論集』23-1:106-112，2012年6月
3. 天田城介，新・社会福祉士養成講座編集委員会編(編集委員：天田城介・後藤隆・潮谷有二)，『社会調査の基礎〔第3版〕』(『新・社会福祉士養成講座』第5巻)，中央法規出版，2013年2月
4. 天田城介，「ポスト経済成長時代の少子高齢社会におけるマーケティング戦略」，公益財団法人吉田秀雄記念事業財団発行『AD STUDIES』43:26-30，2012年2月
5. イム・ドクヨン，「日本における公的扶助制度現況と適用——障害者Aさんの事例を中心に」，障害学国際研究セミナー2012，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日
6. イム・ドクヨン，「韓国における『浮浪児』の誕生——1960年代を中心に」，2011年度国際的研究活動促進研究費成果報告会(人文社系)・立命館大学，2012年4月27日、
7. イム・ドクヨン，「日韓比較研究から見えてくること、ホームレスそして障害学」，ワークショップ「東アジアにおける障老病異を思考する価値」(富山大学「東アジア「共生」学創成の学際的融合研究プロジェクト」立命館大学生存学研究センター共催公開企画・立命館大学，2013年2月12日
8. 酒井隆史・宇城輝人・前川真行・天田城介，「鼎談：都市論—生存の都市へ」，『生存学』6: 220-277，(2013)

9. 大野真由子, 「慢性疼痛と「障害」認定をめぐる課題——障害者総合支援法のこれからのに向けて」, 障害学国際研究セミナー2012, イルムセンター・ソウル, 2012年11月23日
10. 大野光明, 「『沖繩闘争』における『文化』の位置——竹中労の島唄論再考」, カルチュラル・タイフーン2012・広島女学院大学, 2012年7月14日
11. 服部正・島田康寛・竹中悠美・吉田寛・鹿島萌子, 「巻頭座談会: オルタナティブな教育の場としての美術館」, 『生存学』6: 7-48, (2013)
12. 川端美季, 「近代日本における精神障害者の行動制限について」, 障害学国際セミナー2012, イルムセンター・ソウル, 2012年11月23日
13. 桐原尚之・白田幸治・長谷川唯, 『「精神病」者運動家の個人史(1巻)』, 立命館大学生存学研究センター, (2013)
14. Kirihara, Naoyuki & Yui Hasegawa, "Equality of legal capacity and Abolition of Mental Health Act," Oct. 2012, APDF2012, Incheon, Republic of Korea
15. 桐原尚之, 「社会事業史のアンチテーゼとなる歴史と障害学」, 障害学国際研究セミナー2012, イルムセンター・ソウル, 2012年11月23日
16. 桐原尚之・長谷川唯, 「支援された意志決定を巡って——日本国内法の現状と課題」, 生存学国際プログラム第3回障害学国際研究セミナー, イルムセンター・ソウル, 2012年11月23日
17. 桐原尚之, 「報道から読む精神障害者と施策の表象」, カルチャルタイフーン2012・広島女学院大学, 2012年7月15日
18. クァク・ジョンナン, 「韓国の高等教育における聴覚障害学生支援——法的位置づけとナザレン大学の支援体制を中心に」, 『社会言語学』XII: 269-282, 2012年11月.
19. クァク・ジョンナン, 「日本における介助制度と現場③——24時間介助制度を促しながら、考える手足論」, 『隠された自立探し』, 障害女性共感, 障害女性自立生活センターSUM8: 26-29, 2012年12月
20. 後藤玲子(招待報告), 「アメリカン・リベラリズムと生存権」, 持続可能な福祉国家システムの歴史的・理論的研究プロジェクト, 立命館大学, 2012年2月4日
21. 後藤玲子(報告) "Operational formulation of Capability Approach—Consumption as Production—", WEAI conference, March 16, 2013, in Keio University, DECISION-MAKING AND THE CAPABILITY APPROACH session.
22. 後藤玲子(招待報告), "Toward a Conditional Basic Income Welfare State?—Capability Approach and "Tax and Social Security Harmonization" Reform in Japan—", Fairness and the Welfare State in the Age of Aging, May 11-12, PSE Building 618, Korea University.
23. 権藤眞由美, ポスター報告「JDF被災地障がい者支援センターふくしまにおける提言——交流サロン『しんせい』の取り組みを中心に」, 障害学国際セミナー2012, イルムセンター・ソウル, 2012年11月23日
24. 坂井めぐみ, 2012, 「日本の再生医療研究への当事者団体の関わり——日本せきずい基金をめぐる」, 博士予備論文, 立命館大学大学院先端総合学術研究科, 2012年
25. 松田美智子・渋谷光美, 『介護実習教育における実習指導の研究に関するアンケート調査報告書〜新カリキュラム導入後の実習現場における介護実習教育の現状と課題の明確化』, 羽衣国際大学人間生活学部生活福祉コース pp. 1 - 39, 2012年12月,
26. 白田幸治, 「精神障害者に居場所はあるのか?——セルフヘルプグループおよび福祉施設運営の経験から」, 第9回先端総合学術研究科国際コンファレンス『まちの居場所シンポジウム——カストロフィ後の回復力と可塑性——』, 立命館大学, 2013年2月21日
27. 立岩真也, 『「基準」について/対立について』, 障害学国際セミナー2012, イルムセンター・ソウル, 2012年11月23日
28. 立岩真也, 「開会挨拶」, 障害学国際セミナー2012, イルムセンター・ソウル, 2012年11月23日
29. 立岩真也, 「承認?」, 一橋大学・大学院社会学研究科先端課題研究12「社会科学の承認論的転回」特別シンポジウム「生と性をめぐる承認」パネラー1, 一橋大学, 2013年3月,
30. 立岩真也, 「災厄に向う——本人たち・後方から」, シンポジウム「東日本大震災とマイノリティ——高齢者・障



- 害者・外国人などに関して問わなければならないこと」第2報告，日本学術会議大会議室，2013年1月
31. 天島大輔，「重度身体障がいのある大学院生の学習と生活：日本における重度障がい者の在宅生活の一例として」，生存学国際プログラム第3回障害学国際研究セミナー，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日
  32. 長瀬修，報告「障害者の権利条約と障害者差別禁止法制実施の課題—韓国の経験から何が学べるのか」，障害学国際セミナー2012，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日
  33. 長谷川唯・桐原尚之編，「ESCAP 高級官僚会議調査資料集—『精神保健・医療と社会』研究会，2012年度前期生存学研究センター若手研究力強化型，精神保健・医療・福祉にかんする倫理的・経験的研究」，立命館大学生存学研究センター，(2013)
  34. 長谷川唯，「自立生活って何だ?!—自立生活に潜む医学モデルの検討」，障害学国際セミナー2012，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日
  35. 長谷川唯・安孝淑，「コミュニケーション技術支援—『障害があることで感じる不便さ』の解消における社会モデル」，生存学国際プログラム第3回障害学国際研究セミナー，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日
  36. 堀智久，「英国における出生前診断と当事者のケア—ARCの事例を手掛かりに」，生存学国際プログラム第3回障害学国際研究セミナー，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日
  37. 松原洋子，「福島原発事故と生命（いのち）—研究者の倫理を考える」（第24回日本生命倫理学会年次大会報告特別講演）『日本生命倫理学会ニューズレター』第52号，1頁，(2013)
  38. 松原洋子，「妊婦の血液を用いた新しい出生前診断—ミスリードの著しいメディア報道」，『あせび会だより』第197号，pp. 6-7，(2013)
  39. 松原洋子，四ノ宮成祥ほか「21世紀における生命科学研究と機微技術管理、生命倫理の新たな邂逅」へのコメント，日本生命倫理学会第24回年会公募ワークショップ，立命館大学，2013年10月26日
  40. 松原洋子，松原聡ほか「電子書籍のアクセシビリティ報告会」での指定発言，電子出版制作・流通協議会，日本教育会館，2013年1月15日
  41. 村上慎司，「子育てと住まいから見るベーシック・インカムの可能性—準市場、現物給付との組み合わせ，基準設定への参加」，子育てと住まいから見るベーシック・インカム，京都府立大学，2012年12月
  42. モリ カイネイ，「最近日本の若者事情—所謂オタクの価値観について（近期日本若年人的動向—談所謂禦宅族的価値観）」，突破機構（Breakthrough Corporate），香港・沙田，2012年7月3日
  43. 森下直紀、吉田幸恵、三野宏治，「『病/障害と福祉の争点』研究会報告—水俣病事件の特徴と障害学的連帯の可能性について」，障害学国際セミナー2012，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日
  44. 梁陽日，「ルネッサンスの扉—生きて在るを学ぶ」，連載コラム『月刊編集サービス』735号～746号，機関紙編集者クラブ，2012年4月～2013年3月
  45. 梁陽日，「社会的困難な生徒を支援する学校事例から、若者の総合的支援の場所としての可能性を考える」，科学研究費補助金基礎研究（C）研究課題「通信制高校の実態と事例の研究—若者の総合的支援の場としての学校のあり方」第1回定例研究会（主催：同研究会），大阪市立大学，2012年4月28日
  46. 由井秀樹，「アルバイト経験から考える一時保護所の諸課題」，解説『里親だより』94，6，2012年
  47. 由井秀樹，「色覚「障害」差別と石原色覚検査表に関する歴史的考察：学校衛生における色覚検査に着目して）」（ポスター発表），障害学国際セミナー2012，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日
  48. 吉田幸恵，「病者集団の共同体の接合と解体—日韓ハンセン病補償訴訟を事例に」，障害学国際セミナー2012，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日
  49. 後藤悠里・渡辺克典，報告「東アジアにおける障害者差別禁止法の制定過程—香港と韓国の質的調査より」，障害学国際セミナー2012，イルムセンター・ソウル，2012年11月23日

以上